

第2回かごしま折々あそび展開催中!



左上/おりがみあそび 雛人形と帆掛け舟
右上/首あそび「らかなさがそらたら」の様子
左下/2021年の健康を願って…
コロナを羽のけましよう

12月18日より当館あそんでみやんせコーナーにて第2回かごしま折々あそび展(～1月7日(木)まで)を開催しています。今回はお正月にちなんだ羽子板やお年

玉袋など季節の折り紙も沢山展示しています。声に出しても楽しいことはあそびの展示もあります。

折り紙を折っている先生は、昨年日本折紙協会作品展で最高賞の「下中邦彦賞」を受賞された『つくるんさん』こと原田先生です。今回は受賞された大きな作品も特別に展示をしています。見応えある作品を是非ご覧ください。

今回の展示期間中に開催される体験内容は、遊べる鶴や紙風船あそび、植村先生による鹿児島弁のカルタなど季節のおもしろい遊びをたくさん用意しています。是非、遊びに来てください。また、2月10日(水)から第3回かごしま折々あそび展も予定しています。

歴史講座「明治維新～薩摩の外交官たち」

しばらくお休みしていた歴史講座が再開しました。12月4日・5日に開催した今回の講座のテーマは「明治初期～薩摩の外交官たち～」。今年のNHK大河ドラマの主人公、渋沢栄一と同じ時代を生きた薩摩出身の外交官、森有礼、寺島宗則、鮫島尚信らの活躍があまり知られていないエピソードなどを交えて詳しく解説しました。受講者からは「知らない話ばかりで、大変興味深く聞かせてもらった」「自分でも本を読んで調べてみようと思った」などの感想が寄せられました。

当館の歴史講座は今年の1月も実施予定です。日程・内容などは当館ホームページでお知らせしています。皆さんの受講をお待ちしております。



▲密を避け、維新体感ホールで開催

温故地新

ふるまきを たずね、地元を新たに。

■大好評! 維新演劇シアター



▲今年度の様子。小松帯刀の運命はいかに?!

昨年8月に開幕した薩摩偉人維新伝心隊による維新演劇シアターですが、1月2・3日で最後の上演となります。11月からは、没後150年を迎えた小松帯刀を題材に「小松帯刀、家老はつらいよ」の上演をしています。

お正月のひと時にぜひ維新演劇シアターへお越しください。

■子どもたちの力作、来館者に大好評

10月25日～11月8日、鹿児島県小学校社会科作品コンクールの展示会を当館で開催。このコンクールは小学生の社会科への関心を深め、社会



▲来館者も驚く出来栄

科教育の発展を図ることを目的として毎年行われています。

暑い夏休み、一生懸命に取り組んだ子どもたちの表情が伝わってくる見応えのある作品ばかりで、来館者からは「わかりやすくまとめられていて感心した」「独自の視点で調べていておもしろい」などの感想が寄せられました。

■鶴丸城御楼門の錦絵

鶴丸城(鹿児島城)は、島津義弘の三男で初代薩摩藩主となった島津家久が築城後、明治4年(1871)の廃藩置県で島津忠義が去るまで270年あまり島津氏の居城として藩政の中心的役割を果たしました。御楼門は明治6年(1873)の火災で本丸とともに焼失しましたが、令和2年3月にかつての姿が復元されました。

この錦絵は、平成21年10月に静岡県沼津市の松下宗柏氏から寄贈されたもので、三代目歌川広重(1842～1894)が「日本地誌略圖」として発行した版画の一つで、御楼門と武士の姿や洋服姿の人を描いており、当時の風俗が偲ばれ興味深いものです。

維新ふるさと館に展示してあります。是非ご覧ください。



▲鹿児島之圖「薩摩國一」鶴丸城の御楼門



明治維新を分かりやすく、楽しく

維新

2021 WINTER
維新ふるさと館情報紙/No.35

ウイリス、高木に西洋医学を説く

(鹿児島市山下町)

維新を歩く

コロナウイルスが、世界的に猛威を振り、経済の停滞や人々の生活に大きな影響を及ぼしています。近世初めにも、国民病と恐れられたのが結核と脚気でした。結核は明治15年(1882)コッホが結核菌を発見してから治療薬の開発が進みましたが、脚気は原因が分からず多くの患者や死者が出ました。

特に日清・日露戦争では、陸軍で多数の患者や死亡者が出ましたが、海軍ではほとんど見られませんでした。脚気は麦飯を食べれば予防できるとして兵食改善を進めた海軍軍医、高木兼寛の功績でした。

高木は、薩摩藩日向国(宮崎市高岡町)出身で、鹿児島医学学校を創設したイギリス人医師ウィリアム・ウイリスに学んだ後、海軍軍医となりイギリスのセントトーマス病院医学学校で臨床医学を学びました。脚気治療の功績は世界的に認められながら、「脚気の原因は細菌である」との主張が大勢を占める日本では評価されず、大正時代にビタミンが発見されるまで激しい批判を浴びました。

この高木を、医学校で指導したのがウイリスです。ウイリスは、文久2年(1862)イギリス公使館付医師として来日、戊辰戦争で薩摩藩の軍医として招かれ、政府軍の医師としても敵味方の別なく多くの患者を治療しました。

明治維新後、西郷や石神良策(鹿児島島の蘭方医)らの招きで来鹿、鹿児島医学学校を創設し、英国式の臨床医学を指導して多くの医師を育てました。また、小川町に煉瓦造りの病院(赤倉病院)を建設して何万人もの患者を治療しました。西郷隆盛とも親しく交わりましたが、西南戦争勃発により鹿児島を離れて帰国しました。その後再び来日しますが、ドイツ医学が主流を占める中で仕事を得られず、妻の八重を残し息子のアルバートを伴って帰国、再び来日することはありませんでした。

日本や鹿児島島の医学の進歩に尽くした2人の偉人の功績が、医学関係者以外に余り知られていないのは残念な気がします。御楼門近くに建つ2人の銅像を訪れてみてはどうでしょう。

(文・肥後秀昭 維新ふるさと館歴史解説員)



維新伝心

維新の心を伝えます

新年あけましておめでとうございます。

維新ふるさと館は、今年も“維新伝心”。維新の心を分かりやすく、楽しく伝えていきます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント等縮小または中止を余儀なくされました。今年は、新しい生活様式のもと、イベント等開催できるように頑張っていきたいと思えます。

新春最初の運だめし♪維新ふるさと館クロスワードに挑戦してみませんか？正解者の中から抽選で、素敵な景品をプレゼントします。

【応募方法】

ハガキに、
①答え ②郵便番号 ③住所 ④氏名 ⑤年齢 ⑥電話番号
を記入し、「維新ふるさと館「クロスワード」係」宛に送る

【応募締切】

令和3年1月17日(日)必着

【送り先・問い合わせ】

〒892-0846 鹿児島市加治屋町23-1
鹿児島市維新ふるさと館「クロスワード」係
TEL 099-239-7700
※応募いただいた方の個人情報は、景品の抽選・発送のみに使用いたします。

⑤

③

A

①

E

⑦

D

④

⑥

B

②

⑧

C

⑨

F

ヒントは
この情報紙の中
にあるよ!

答え

A B C D E F

【ヨコのカギ】

- ①天保6年12月、鹿児島市城ヶ谷(現鹿児島市長田町)で生まれる。
- ④明治11年、大阪に最初の〇〇〇〇(現在の商工会議所)や株式取引所、大阪商業講習所(現在の大阪市立大学)を建て、大阪の商業の発展に力を注いだ。
- ⑦明治2年、大隈重信に財政知識を生かしてほしいと説得され〇〇省に入省する。
- ⑧商人としての手腕を発揮し、かつて仕えた〇〇家の財政を支える。
- ⑨毎月1日に発行される財団機関誌の名前にもなっているこの人物の雅号。

【タテのカギ】

- ②8歳の頃、藩校の〇〇〇に入り、学問と武芸に励んだ。
- ③文久3年、薩英戦争が始まり、〇〇〇とともに捕虜となった。
- ⑤若くして海外情勢に目覚め、明治政府初期〇〇〇として外国著名人と交流する。
- ⑥天保11年2月、武蔵国榛沢郡血洗島村(現埼玉県深谷市)で生まれる。(2024年新紙幣になる予定)

イベント 歴史シンポジウム

“未来を切り開いた ふたりのてんがらもん” 2月20日開催

維新ふるさと館では、「明治維新を分かりやすく、楽しく」をモットーに、歴史講座等のほか、維新演劇シアターの上演、かごしま折々あそび展の開催など、幕末から明治維新に関する情報等の発信をしております。

今年度も幕末から明治維新にかけて活躍した偉人を紹介するため、歴史シンポジウムを開催いたします。

明治維新から150年あまりが経過した今日、「西の五代」、

「東の渋沢」と称される2人は、幕末から明治維新にかけて未来をどう見据え、どのように切り開いてきたのか、歴史の背景やエピソードなど、これからの時代展望にヒントとなる沢山の話が聴けるものと期待が膨らんでまいります。

是非、この機会に歴史の扉を開けてみましょう。お待ちしております。

基調講演
第1部

「渋沢栄一の生い立ちと近代資本主義」
講師/加来 耕三氏(歴史家・作家)
「五代友厚の明治産業革命、志と実行力」
講師/桑畑 正樹氏(南日本新聞社読者局データベース部長)

シンポジウム
第2部

テーマ「2人の志をどう引き継いでいくのか」
パネリスト/加来 耕三氏、桑畑 正樹氏、
福田 賢治氏(前維新ふるさと館特別顧問)
コーディネーター/肥後 秀昭(維新ふるさと館歴史解説員)

〈日 時〉令和3年2月20日(土)13:30~16:30
〈場 所〉サンエールかごしま(2階講堂) 鹿児島市荒田一丁目4-1
〈入場料〉無 料
〈定 員〉200名(事前申込み) ※応募多数の場合は抽選
〈問い合わせ先〉鹿児島市維新ふるさと館 TEL099-239-7700まで



▲昨年度の様子

明治の経済人「西の五代」と「東の渋沢」のプロフィール



五代友厚

生年月日 天保6年12月26日
没年月日 明治18年9月25日
享年 50歳(満49歳)
出生地 薩摩国鹿児島郡城ヶ谷
(現:鹿児島市長田町)

横顔

幕末、薩摩藩使節として渡英し、帰国後明治政府に出仕するがのち下野。通商会社・為替会社のほか、鉱山開発や紡績、製藍などの事業を立ち上げ、大阪経済発展のために株式取引所や商業講習所(現:大阪市立大)などを設立、商都大阪の基礎を築きました。

エピソード

「五代友厚伝」によると、幕府が貿易視察のために上海に船を送ることを聞いた五代は、水夫に扮し密航を成功させたという。
五代は事前に外国船の購入を藩に願ひ出でて、上海で汽船売却の情報を得て交渉し、翌日の地元上海の新聞に「一水夫が蒸気船を購入した」と掲載され、大騒ぎとなったと五代は語っています。



渋沢栄一

生年月日 天保11年2月13日
没年月日 昭和6年11月11日
享年 92歳(満91歳)
出生地 武蔵国榛沢郡血洗島村
(現:埼玉県深谷市血洗島)

横顔

青年期は過激な尊攘志士であったが、一橋慶喜の家臣となってパリ万博参加の徳川昭武の随員として渡仏し、帰国後大蔵省に入るが予算編成をめぐる政府と対立、下野して第一国立銀行(現:みずほ銀行)の他、多種多様な企業設立に関わり近代日本経済の父といわれています。

トピックス

トピックス① 2021年大河ドラマ「青天を衝け」
令和3年2月放送開始予定。時代は幕末から明治へ。渋沢栄一は時代の潮流に翻弄されながらも、高い志を持って未来を切り開き、近代日本のあるべき姿を追い続けました。
トピックス② 2024年度新1万円札発行!
2024年度上半期に2004年以来20年ぶりに新紙幣が発行されます。1万円札の人物の変更は、1984年に聖徳太子から福沢諭吉になって以来、渋沢栄一へと引き継がれます。